

Title	『千家詩選』と『新選集』：国清寺旧蔵本をめぐって
Sub Title	A transcript of the Shinsen-shu manuscript on the printed edition of the Qian jia shi xuan kept in the Kokusho Temple
Author	住吉, 朋彦(Sumiyoshi, Tomohiko)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2010
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.45 (2010.) ,p.99- 138
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大沼晴暉教授退職記念 挿図
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20100000-0099

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『千家詩選』と『新選集』

——周防国清寺旧蔵本をめぐって——

住 吉 朋 彦

一 『千家詩選』とその版本

宋末の詩人、後村劉克莊の編集と題する『分門纂類唐宋時賢千家詩選』(以下「千家詩選」と簡稱)は、早く南北朝時代に日本に齎され、五山僧の参考に供されていた。貞和二年(一三四六)に歿した虎関師鍊の『濟北集』卷十一・詩話に、次のようにある¹⁾。

世所傳唐宋千家詩選、後村先生編集者、恐非也。予見後村集六十卷、絕無其事。只跋宋氏絕句詩²⁾云、余選唐人及本朝七言絕句、各得百篇、五言絕句亦如之。又云、元白絕句最多、白止取三百、元止取五言一首。又云、夫合兩朝六七百

年間、冥搜精擇、僅四百首、信矣、絕句之難工也。以是而言、劉氏之詩撰、其法尤嚴。今之千家詩、其撰體繁冗舛錯。豈出于後村手者邪。疑俚儒託名於劉氏手。其間詩多錯作者名。或四韻詩截四句、收爲絕句。凡絕句四韻、體裁格別。若分四韻作絕句、不協詩法。後生見其不協者、只信後村撰、以爲法格、敗詩道者不鮮矣。又朱淑真詩、其格律軟陋而多收、何哉。雪詩押兼字者、不成文理。我反覆詳之。劉氏欲撰詩、先博採諸家、未遑精擇而沒、後人以其創之、漫加名氏耶。

虎関は既に、劉氏別集に見える自選への言及を参照しながら、「繁冗舛錯」と、『千家詩選』の編集に批判を加え、劉克莊の編

集に疑いを存し、劉氏の遺稿を得た俚儒が仮託したのであるうと推測している。確かに現存の『千家詩選』は、唐宋の五七言の律詩、絶句を取り混ぜ一千首に餘る規模で、文献に見える劉氏の編集とは異なる結構を有つ。また現行の『後村先生大全集』を見ると、その卷九十四、九十七に、「唐五七言絶句」「本朝五七言絶句」「中興五七言絶句」や、その統選の序を収録するが、編集といふ篇数といい、現存の『千家詩選』とは異なるようである。

本書に題跋を附した繆荃孫も、これらを挙げながら、「不必強爲附會」と、現存本との関連付けには慎重な態度を示している。³⁾

真の編者のことは暫く未詳とするが、この『千家詩選』は、時令・節候より禽獸・昆虫・人品門に至る十四門に編成された、唐宋の詩の、主題別の選集である。各門の下には、春・夏以下の細目が立てられ、主題ごとに唐宋の作品を縦覧できる形は、類書に学んだ出版書肆流の編集と見なされよう。また本書に収録された作者は、宋末の戴復古等の江湖派や、劉克莊より少し後輩に当たたる方岳の作に及ぶ。また同じ詩篇を収録した別伝の書と校合すれば、詩篇の題目は、門類に合わせて省略され、作者や本文を錯誤するなど、やはり粗雑な編集と見られよう。

しかしながら、本書の伝える群小詩人の作品には、他に所伝

のないものが含まれる他、宋末元初の文学普及の一面を垣間見せるものである。そして、たまたま接し得た中国文化の断片を、濃縮して受け取る気味のある日本漢学の対象としては、南北朝以降に、一定の重みを持ったと捉えることができる。さて、この『千家詩選』の本文には、次に掲げた六種が知られている。

分門纂類唐宋時賢千家詩選二十二卷

イ・〔宋末元初〕刊本 成簣堂文庫藏 丹波法常寺旧藏

ロ・〔清〕刊 棟亭十二種本

ハ・天保九年（一八三八）刊（官板）覆棟亭十二種本

同〔抄〕

ニ・〔室町末〕写本 龍谷大学図書館藏 西本願寺旧藏

同 存二十五卷

ホ・〔明〕抄本 北京・中国国家図書館藏

分門纂類唐宋時賢千家詩選二十卷 後集十卷

ヘ・〔宋末元初〕刊 北京大学図書館・慶應義塾大学斯道文

庫藏 周防国清寺旧藏

近年相次いだ、中国に於ける本書の研究を参考としてその関係を述べると、イ・ホの本は基本的に同系で、二十二卷の構成を有ち、ニは日本人の仮名注を伴う本、ホは、二十二卷の後に、次の三十卷本から詩篇を補ったと見られる残欠本である。一種のみ異なっているのは、への版本で、二十二卷本の末の、人品門を欠く代わり、別の後集十卷を附随し、前後集三十卷の結構を有っている。二十二卷本と三十卷本の関係は、二十二卷本が原形で、三十卷本の後集十卷は、後人の増補に係るもの、実際、同〔宋末元初〕刊本の目録の首を見ると、後村先生の編集を諷しながらも、牌記を設け「先生家藏所編善本並前集所未備門類」の詩篇を集めた由を述べてあり、書肆の増修に拠ることが明らかである。

二 国清寺旧藏〔宋末元初〕刊本とその書入

三十卷本の伝本は、現在のところ、北京大学図書館と慶應義塾大学附属研究所斯道文庫に收藏する〔宋末元初〕刊本一例を知るのみ、この本の書誌を次に掲げる。

分門纂類唐宋時賢千家詩選 二十卷 欠卷十六至十七 後集十卷

宋〔劉克莊〕（後村）編 唐 中 十一冊

〔宋末元初〕刊〔室町〕書入 国清寺旧藏

〈北京大学図書館 □四〇四四〉 八冊

存卷一至四 八至十五 十八至二十 後集卷二至四 八至十

清光緒二十九年繆荃孫跋 徐乃昌 李盛鐸旧藏

〈慶應義塾大学斯道文庫 ○九一・卜九六・三〉 三冊

存卷五至七 後集卷一 五至七

後補丹止繫唐草文空押艶出表紙（二一・二×一三・三）中央
上辺貼布亀甲形藏書票、「藏」墨書。左肩貼布紙箋、或は打付
に、後筆「前（後）幾」墨書。襖紙改装。首冊前見返し、後筆
「蝶翅輕便細雨中」春詩 朱淑真「墨書」。

目録（二三張）、首十二張鈔補、至卷之二十、昆虫門、食蟹。

柱題「寺目」、尾題「分門纂類唐宋時賢千家詩選目錄終」。

卷首題「分門纂類唐宋時賢千家詩選卷之一」（低八）後村

先生編集／（花口魚尾）時令門（大字）／（三格）春（同）

附（墨閉陰）「探春（中略）／春愁（中略）」／唐賢（墨閉）春

〔隔十〕李商隱〕以下、每篇改行（起承転／結）附傍点。

（第一冊） 卷之一（一六張） 時令門

第二冊 卷之二（八張） 同

卷之三（二〇張） 節候門

卷之四（二〇張） 同

第三冊 卷之五（五張） 氣候門

卷之六（六張） 晝夜門

卷之七（二三張） 百花門

第四冊 卷之八（七張） 同

卷之九（二〇張） 同

卷之十（一一張） 同

第五冊 卷之十一（九張） 竹木門

卷之十二（二〇張） 天文門

卷之十三（二〇張） 同

卷之十四（七張） 地理門

卷之十五（一一張） 同

第七冊 卷之十八（五張） 音樂門

卷之十九（一一張） 禽獸門

卷之二十（六張） 昆蟲門

後集目錄（二三張）、首題「分門纂類唐宋時賢千家詩選目錄

（大字） 后集（墨閉陰）／（低大）後村先生編集（跨）

行を接し三格を低し単辺亜形卷雲文陰刻辺欄中單辺無界「兩坊

詩編充棟汗牛獨是編詩人莫不稱賞今再將先生家藏所編善本

並／前集所未備門類人所願見而不可得／者騰作後集一部刊行伏

希眼月」牌記あり。至卷之十、謝惠禽獸。尾題「分門纂類唐

宋時賢千家詩選后集目錄終」。

卷首題「分門纂類唐宋時賢千家詩選卷之二」（格）後村

先生編集／（花口白魚）仕官門（大字）／（二格）朝見（同）

附（墨閉陰）朝見（中略）／從駕（中略）／唐賢（墨閉）早朝

大明宮呈兩省寮（隔）賈至」以下。尾題「分門纂類唐宋時賢

千家詩選卷之一 后集（墨閉）。

（第八冊）後集卷之一（一四張）仕官門

第九冊 卷之二（存第一至四張）投獻門

卷之三（存第五至十七張）

卷之四（一二張）慶壽門

第十冊 卷之五（一二張）同

卷之六（八張）慶賀門

卷之七（二二張）千求門

第十一冊 一巻之八（一二張） 餽送門

巻之九（一二張） 謝惠門

巻之十（一二張） 謝饋送門

左右双辺（一七・六×一・二種）有界、每半張十一行、每行二十一字、柳体。版心、小黑口、双黒魚尾（向不對）、上尾下題「寺幾フ」「后 幾フ」、下尾下張數。尾題同首。

巻五第三張、後集巻二第五張以下、同巻三首四張欠。同第五張在同巻二後。同巻四第二至十一張在同巻十第一、十二張間、同巻十第二至十一張在同巻四第一、十二張間。同巻七第八張鈔補。室町期朱豎傍句点、傍圈、欄上朱墨増補書入。淡縹色不審紙。

每冊首に単辺亀甲形陽刻「香山常住（書楷）」墨印記（国清寺所用）。北大分每冊首に単辺方形陽刻「積學齋（書楷）」「徐乃昌／馬韻芬／夫婦印（同）」朱印記、同「木犀軒／臧書」朱印記（李盛鐸所用）を存す。目第五張後に「劉後村千家詩選跋／分

門類纂唐宋時賢千家詩選宋刻本半葉十一行行二十／一字積餘得自日本檢曹棟亭刻本校之行數字數均合尚／存巻一二三四八九十一十二二十三十四五十八十九／二十為前集又巻三投獻門四慶壽門八餽送門九謝惠門／十謝饋送為後集前集欠五六七十六十七五卷後集欠一／二五六七五巻十巻以後不知有無缺逸曹刻廿二巻

廿巻／為前集與此均合後集止存二巻均人品門為此本所無但／不知當在何巻耳又前集後留一葉均係訪僧道詩今亦無／此門後村大全集所載唐賢詩續選宋賢詩選近／賢詩後選均與此不合不必強為附會前集皆物類後集皆／人事類曹刻不知是刻是鈔大約亦不全為書估強合挖去／前後集字以充全帙亦其長技曹本巻十一潘紫岩松詩末／句此物當為伯仲行曹本此物下缺五字趙遁道苔錢詩不／比楡花鋪砌白曹本不比下缺五字巻十四劉後村登山詩／捫蘿莫怪徐徐下曹本徐徐上缺四字巻十八劉後邨聞笛／詩何必謝公雙淚落曹本脫淚落二字武元衡角詩胡兒吹／角漢城頭曹本脫胡字均遜於此本又此書止有曹刻各書／目均未見阮文達外集亦未能悉其始末賴此本尚存天壤／俾見是書真面目雖零珠碎璧亦可寶也光緒癸卯夏六月／江陰繆荃孫「墨書あり。光緒癸卯は二十九年（一九〇三）（図版参照）。

この版本、現在中国では元刻本と見なされている。この本の成立時期は、後人が劉克莊に仮託したと考えれば、劉氏の歿年が一応の基準となるが、これは宋末度宗朝の咸淳五年（一二六九）、杭州陥落まであと七年という時点に当たる。その後出版を重ねたとすれば、元初に下る可能性は高く、版式字様にもそ

うした傾向が看取される。ただ、初刻から時を隔てずに重版することもあり、その頃の様式を有つ本という意味で、本稿ではひとまず宋末元初と見て置く。またこの版本の刊行地は、柳公権風の書体を変形した字様や、小型の版式、標目のパターンなどから、劉克莊の地元でもある、福建方面の版刻と推測されるものの、書鋪名、刻工名などの証跡は見られない。

さて次に、この本の来歴について、書入や装訂、印記を見ると、古くは日本に伝来したことがわかる。書入の字様は、室町期後半の禅僧に特有のもの、また北京大学・斯道文庫蔵本を通じて「香山常住」の墨印記が見られ、香山を山号とする周防国清寺の旧蔵と見られる。

国清寺は、応永二年（一四〇四）守護大名の大内盛見が現山口市水の上町に創建した禅宗寺院で、開山は臨済宗弘鑑派の透関慶頼、以後大内氏の菩提寺となり、天文二十年（一五五一）大内義隆敗死の後も存続し、寺格は五山に準ずる十刹に登ったが、慶長五年（一六〇〇）毛利家の転入に伴い廃絶、同地に臨済宗聖一派の常栄寺が入っている。なお、常栄寺は安芸吉田からの移転。近世には香山常栄寺と称したが、文久三年（一八六三）常栄寺は同じ山口の宮野下に転出、その後へ洞春寺が移つ

て、明治四年（一八七一）より現在まで、正宗山洞春寺と三変した。洞春寺も毛利家の菩提寺であるが、安芸吉田から広島、萩を経て山口に移った由である。

こう見てくると、「香山常住」を称し得るのは国清寺から常栄寺、応永四年から文久三年の間（一四〇六—一八六三）ということになるが、この印記を有つ写本や版本を見ると、中世以前の古写本、古版本ばかりで、実質的に国清寺時代の収集であることがわかる。そこで本稿では、北京大学と斯道文庫に分蔵するこの版本を、国清寺旧蔵本、国清寺本と総称する。

この本の北京大学収蔵分は、光緒二十九年（一九〇三）の繆荃孫の自筆の跋が附されていることから、明治期の転出と見られる。本書の抄本を解題した傳増湘の『藏園群書題記』を見ると、恐らくはこの版本を指し、光緒十年に日本から帰国した楊守敬の将来と伝えている。その後、徐乃昌、李盛鐸の手を経て、北京大学図書館に入ったという次第であろう。また日中の伝本を併せても、卷十六、十七等は、その所在がわからない。なお他日の出現が望まれる⁶。

またこの版本には、室町期禅僧の筆跡と思われる、大量の書入が見られる（一一一頁以下の翻印本文を参照）。これらは、

既存の校証では問題にされていないが、唐宋より元末民初に至る七言絶句二百六十三首を載入したもので、その内容には、研究上、一定の意義を有している。

三 『新選集』と国清寺本『千家詩選』書入

僧・江西龍派の編集に係る『新選分類集諸家詩卷』（以下「新選集」と簡稱）という総集からの移写によることが知られ、後に掲出する翻印本文の57・143・151・193・199・200・240の七首を除き、『新選集』中に同文が見出される。

ここでは、次に掲げる『新選集』の節序門の首を以て例証としたい。本文は、建仁寺両足院収蔵の室町期写本（本論集五三

国清寺本『千家詩選』の書入は、ほとんど全て、室町期の禅

頁・堀川貴司氏翻印並に注へし著書参照）に拠る。

- | | | | | | | |
|----|----------|---------|---------|---------|------|-----|
| 47 | 消夜香盤不住烟 | 女郎呼伴坐燈前 | 数残二十五声點 | 昨日回頭是去年 | 元旦 | 黄子魯 |
| ○ | 一元块圪先天易 | 萬物胚輝太極圖 | 自嚼梅花冰片、 | 無人先后飲屠蘇 | 元日 | 方巨山 |
| ○ | 新年試筆無題詩 | 老去才衰得句遲 | 春事未容桃李覺 | 梅花開到北邊枝 | 新歲 | 戴復古 |
| 48 | 宴罷辛盤轉曉風 | 乾坤生意浩無窮 | 宿雲新捲山前雨 | 元氣淋漓萬木中 | 立春 | 周衡之 |
| 49 | 聞說黄昏始得春 | 朝來霧氣已氤氳 | 窓前蜂子堵前蟻 | 早倚暄風不怕人 | 又 | 何子蕃 |
| 51 | 半夜新春入管城 | 平明銅雀綠苔生 | 浮漸把斷春風路 | 訴与青州借援兵 | 又 | 蕭十岩 |
| 50 | 東君珂珮響珊珊、 | 青馭多時下九関 | 方信玉霄千萬里 | 春風猶未到人間 | 立春后作 | 王初 |
| ○ | 燕子今年指社来 | 翠瓶猶有去年梅 | 丁寧莫管杏花俗 | 付与春風一道開 | 社日 | 方巨山 |
| ○ | 無花無酒過清明 | 興味蕭然似野僧 | 昨夜鄰家乞新火 | 曉窓分与讀書燈 | 清明 | 王元之 |
| ○ | 踏歌槌鼓近清明 | 小雨霏、無弄晴 | 喚起十年心上事 | 春風楼下賣花聲 | 又 | 何應龍 |
| 55 | 客中今日最傷情 | 憶着家山松樹林 | 白石岡頭聞杜宇 | 見他人墓亦霑襟 | 客中清明 | 戴復古 |

	吳松江上看春雨	客路扁舟三月行	兩岸人家插楊柳	不知今日是清明	吳松江上清明	僧季暉
56						
	二月江南花滿枝	他鄉寒食遠堪悲	貧居住、無煙火	不獨明朝為子推		孟雲卿
52						
	荒塚無人捧土修	夕陽芳草替生愁	路傍知是誰家子	猶把花枝插滿頭		僧聖徒
53						
	拜掃無過骨肉親	一年唯此兩三辰	塚頭莫種有花樹	春色不關泉下人		寒食野望
54						
	輕雲閣雨曲江頭	柳瘦梅清恰似秋	最恨水仙花不語	更無可伴說春愁		早春
1						
	九十春光闕日光	山城斜路杏花香	幾時心緒渾無事	得及遊絲百尺長		春日作
○						
	小院無人雨長苔	滿庭脩竹間疎槐	春愁兀、成幽夢	又被流鶯喚醒來		又
2						
	白晝偶成芳草夢	起來幽興有新詩	風簾不動黃鸝語	坐見庭花日影移		又
3						
	紅紫紛、花上塵	可憐遊子不知春	杜鵑叫落千山月	自不能歸却勸人		又
4						
	御街官柳蘸金黃	想見遊蜂戲蝶忙	堪咲軟紅塵裡客	賣花擔上看春光		又
5						
	風光如此莫傷春	雲樹烟花一色新	杜宇不啼真解事	帝鄉誰是肯歸人		又
6						
						李德真

右のうち、資料番号のアラビア数字を附したものは、国清詩本『千家詩選』の書人に見える詩である。47、56、1、6と、詩の本文を共有するだけでなく、一応『新選集』中の順序を保ちつつ引かれていることがわかる。注意を要する点は、順序の入れ替わった所もあること、また書人には引かれない詩があることと見られようが、まず前者について、1、6、47、56のブ

ロックの順序が逆であるのは、『新選集』節序門に当たたる内容が、『千家詩選』では巻一・二の時令門、巻三・四の節候門に分かれており、『新選集』の前方は巻三に47、56として、後方は巻一に1、6として書入れられたためで、前者の内部でも一部前後しているのは、『千家詩選』の本文が、清明の詩と寒食の詩を混在させているためである。また番号がなく書人に引かれない詩で、○号を附したものは、『千家詩選』の本文に見える詩で、実はその全てが該当する。つまり、これらは偶々

省いて写されたのではなく、両者の重複を避けたのだということがわかる。結局『千家詩選』の書人は、同書の構成に沿って、重複しない『新選集』の詩を補った内容ということができ、その限りでは漏れなく収録しようという意図が見て取れる。

但しこの書人も『新選集』の全てを取ろうというのではなく、特定の部門についてこれを行ったことも指摘される。欠巻の巻十六・十七は不明ながら、巻五・六の氣候門、昼夜門、巻十四・十五の地理門、後集の部分にはほとんど書入がない。これらは『新選集』にも対応すべき門目があることから、書入者の関心に従い省略されたと見ることができると言える。また逆に、季節でいうと春秋、景物で言えば梅や杜鵑について執拗な書入が認められる。

なお『新選集』の性格については、本集の続編である慕詰龍攀の『新編集』とともに、注(一)堀川氏著作に詳しく述べられている。当面、本稿との関わりから言うると、『新選集』の選集資料のことが問題になる。

同集の選集資料は、未だ完全に明らかとはなっていないが、先行する中国の総集のうち、『千家詩選』や『聯珠詩格』の影響が認められ、日本の義堂周信が宋元の禅僧の偈頌を集めた

『貞和集』も、その源の一と見られる。先ほど見た『新選集』の節序門に『千家詩選』との重複が多かったことは、このような事情を考えれば当然であり、『千家詩選』は、『貞和集』とともに『新選集』の部立てにも影響を与えたと見られている。

『新選集』と『新編集』は、後に天隱龍沢の『錦繡段』の藍本となったことでも著名であるが、同書の流行によって寧ろ原編の影はうすれ、転写本もあまり多くは作られないようになっていった。従って国清寺本『千家詩選』書入に見られる『新選集』の影響は、『新選集』流布受容の証拠としても貴重な事例と言える。

四 国清寺本『千家詩選』書入『新選集』の本文

この書人は、二百六十三首の多きに互るため、『新選集』の写本としても一定の意義を有するものと予見される。そこで暫くこの書入の本文と『新選集』の異同を問題としたいが、『新選集』の諸本についても、前記の堀川氏論考に言及があり、室町から近代に至る、次のような写本六本が紹介されている。

建仁寺兩足院藏〔室町〕写本

一 一八四首

龍谷大学図書館藏 天文九（一五四〇）写本 一 一四一首

内閣文庫藏〔江戸前期〕写本 一 一三七首

尊經閣文庫藏 大正七（一九一八）写 転写前本

成實堂文庫藏〔室町末〕写 改編本 八四三首

蓬左文庫藏〔室町末〕写 分韻改編本 二 三九三首

これに拠ると、後二者は『新編集』の内容も併せて増刪した改編本とのこと、そうすると、新写本を除く前三者のみが当面考察の対象となるが、三者は篇数に違いがある。これらは単に数が異なるのではなく、相互に出入りがある、異なり総数はおよそ一二〇首と計算される。兩足院本には独自に收入する詩篇が多く、収録と配列の問題から検討がなされ、龍谷大学本は比較的兩足院本に近く、内閣文庫本は少し離れた別系統の本という観測が立てられている。

稿者は今回、国清寺本『千家詩選』書入を基に、兩足院本、内閣文庫本によって校合を試み（以下、両本、内本と略称）、詩の出典によっては、『聯珠詩格』とも比較した。その結果を抄録したのが、翻印本文に附録の校記である。

まず番号の下、『新編集』での門目を記した所にアスタリスを附したものは、対校本における欠文を指すが、30、85、95等では、内本に欠く詩を両本と共有する一方、79等では、両本に欠く詩を内本と共有している。大まかにいって書入本は、両本独自の収録を共有しており、内本の脱誤を免れている点が多く見られる。しかしその逆の場合もあることから、書入本の基となった本も、やはり独自の収録であった可能性がある。

また具体的な本文を見ると、書入本には、誤写や脱文が多く指摘でき、例えば6の起句、両内二本に「風光如此莫傷春」とある、下二字を書入本は「陽春」に作るが、この形では解読できず、まずこのような例が少なくはないことを前提とする。しかし8の起句、書入本、両本の「古鼎燒殘心字香」は、内本に「石鼎」「心事香」とあるが、もともと本詩を収める『聯珠詩格』も書入本、両本と同じに作る上、蔡正孫の注に「閩商貨香以心字爲号」ともある。以下、内本の脱誤は著しく、書入本は、両本と内本とが対立した場合、なお両本を支える意義をもっている。さらに82の承句、書入本の「玉顏紅頰會稽仙」は、両本の「紅頰」、その誤写かと思われる内本の「紅頰」に対立し、85の起句「聞說梅花拆曉風」は、両本の「折曉風」よりも優れている。

る。つまり、僅かながら校訂に資する独自の本文を、その書入に得られる可能性がある。

最後に、書入本に見え『新選集』二本には見えない詩篇について、前節に57、143以下、七首あると指摘したが、この内の193、199の二例は、慕語龍攀の『新編集』に見えている。これらは書入者が『新編集』をも参考としたか、或いは依拠した『新選集』に、『新編集』からの増補があったかのいずれかではないかと推測される。また他の例では、57は別の筆跡によっており、元来『新選集』の書入とは無関係と思われる。さらに143は出典を『玉屑』即ち『詩人玉屑』と、240は『翰墨全書』と明記しており、これは『新選集』とは別に、独自に補われた詩と推される。しかしなお、他の書入と同筆で『新選集』の二本には求められず、出典の注記されない詩が二首残る。しかし、龍谷大学の他の、諸本の精査を必要とするが、変動の多い『新選集』の振幅の範囲に収まるのではないかと臆測される。いずれにしても、この国清寺本『千家詩選』書入の『新選集』は、不完全であるためにその効力は限定されるものの、『新選集』の伝本研究や校訂に、独特の意義を有する本文と考えられる。

また国清寺本『新選集』書入の様相は、室町期禅僧の学問の

一端を示しており、稀覯の版本を土臺とする諸編の鳩合、異なる書物や、版本と写本とを合わせ集約する、この時期に盛行した編集の例証でもある。その背景には当然、各種の版本、写本を集めた蔵書「香山常住」の全体像が浮かび上がるはずであり、小稿の如きも、その一斑を提示することになるであろう。

右のような理由から、次に翻印本文を掲げ、国清寺本『千家詩選』書入『新選集』の全文を掲出する。翻字に当たっては、UTE8中の近似体を採用し、判断の難しい場合には、正字体の選択を宗とした。翻印中の□号は破損、*号は欠文を指す。また句間の空白は稿者の私意に基づく。一篇の題目を欠く場合、対応する『千家詩選』の題目を（ ）内に補った。

〔注〕

(1) 堀川貴司氏『詩のかたち・詩のころろ——中世日本漢文学研究』(二〇〇六、若草書房) 指摘。

(2) 現存の『後村先生大全集』巻十一「宋氏絶句」跋に「兩年前余選唐人及本朝七言絶句、各得百篇、五言絶句亦如之。令録行于泉於建陽於臨安。元白絶句最多、白止取三二首、元止取五言一首。

惟賢氏兄弟、日羣、日牟、日羣、所作極少、然皆可存。夫合兩朝

六七百年間、冥搜精擇、僅四百首、信矣、絶句之難工也（下略）」とある。

(3) 後述する周防国清寺旧蔵本の解題参照。

(4) 李更・陳新阿氏『分門纂類唐宋時賢千家詩選校証』（二〇〇二、人民文学出版社）、金程宇氏『分門纂類唐宋時賢千家詩選』新探――以兩種稀見日蔵為中心』（中国典籍与文化）第七十三期、二〇一〇）。

(5) 北京大学収蔵分の巻首につき、『第一批国家珍贵古籍名録図録』（二〇〇八、中国国家図書館）に書影を収めるが、この図版は横に一割ほど引き延ばされているようであり、北京大学蔵本と斯道文庫蔵本が條冊に係り、版本としても同一であることは、両者の実見によって推認した。

(6) この北京大学蔵分と、斯道文庫蔵分の写真を基に、校注を加えた点校本が、二〇〇二年に出た注（2）の書物で、校注や出典考証を伴ってこの版本の内容が知られるようになったことは、誠に有益であった。ただ私は、次の点につき附言して置きたい。

この書物に翻字された本文には、実際の版本に対し大きな変更が加えられており、字体や部首の変更は勿論、必ずしも文義を失わない版本の文字を別種の字とする場合も、数多く認められる。

このような変更が、毎篇に近い頻度で行われているから、少なくとも版本研究には適していない。

(7) 『聯珠詩格』の本文は〔南北朝〕刊本により、朝鮮本や、下東波氏『唐宋千家聯珠詩格校証』（二〇〇七、鳳凰出版社）の校記を參考とした。

〔附記〕

本稿は、二〇一〇年六月に行った、北京大学国際漢学家研修基地の招聘による調査研究の成果の一部である。研究をお勧め下さった北京大学中文系の劉玉才氏、原本の調査をお許し下さった北京大学図書館の沈乃文氏に深謝申し上げる。

また本稿は、二〇一〇年十月九日、広島大学にて行われた第六十二回日本中国学会学術大会の日本漢文部に於ける、同名の研究発表に基づき、改訂を加えたものである。席上貴重な御意見を賜った丹羽博之氏、太田亨氏、長尾直茂氏、堀川貴司氏に篤く御礼申し上げます。

〔翻印〕(国清寺旧蔵本『千家詩選』書入『新選集』)

卷之一

- | | | | | | | |
|----|-----|---------|---------|----------|---------|------|
| 1 | 早春 | 輕雲閣雨曲江頭 | 柳瘦梅清恰似秋 | 最恨水仙花不語 | 更無可伴說春愁 | 僧圓具 |
| 2 | (春) | 小院無人雨長苔 | 滿庭脩竹間疎槐 | 春愁兀、成幽夢 | 又被流鶯喚醒來 | 杜牧之 |
| 3 | | 白晝偶成芳艸夢 | 起來幽興有新詩 | 風簾不語動黃鸝語 | 坐見庭花日影移 | *平仲 |
| 4 | | 紅紫紛、花上塵 | 可憐遊子不知春 | 杜鵑叫落千山月 | 自不能皈却勸人 | 呂仲見 |
| 5 | | 御街官柳蘸金黃 | 想見遊蜂戲蝶忙 | 堪笑軟紅塵裡客 | 賣花擔上看春光 | 吳毅夫 |
| 6 | | 風光如此莫陽春 | 雲樹烟花一色新 | 杜宇不啼真解事 | 帝鄉誰是肯皈人 | 李德真 |
| 7 | | 紅芳滿眼鬪風流 | 誰信春來有客愁 | 惆悵不干桃李事 | 故山烟雨憶松楸 | 盧梅坡 |
| 8 | | 古鼎燒殘心字香 | 困來携枕臥藤床 | 一声啼破鳥幽夢 | 花影滿簾春晝長 | 趙彥筑 |
| 9 | | 曲屏紙帳誰春寒 | 午夢山禽惠喚還 | 滿地莓苔萱艸短 | 一檐風雨杏花寒 | 鄧景憲 |
| 10 | | 無名野草依人綠 | 有種山花称意紅 | 春到人間無弃物 | 人心安得似東風 | 開仲見 |
| 11 | | 花信風高分外寒 | 老夫無緒倚欄干 | 藜床一枕昏、睡 | 夢折梨花帶雨看 | 宋明甫 |
| 12 | | 桑麻得雨更看蔥 | 芍藥留春結晚紅 | 怪得鳥声如許好 | 此身還在乱山中 | 歐陽伯威 |
| 13 | | 隄雲漠、雨漫、 | 楊柳如絲不厭看 | 見說前村風更惡 | 杏花無地避春寒 | 僧法振 |
| 14 | | 壓將春鬢濕塵沙 | 閑戶看山自一家 | 睡起不知寒食近 | 澹陰樓閣帶楊花 | 僧義銘 |

15	春晚	蕭、三月閉柴荆	綠葉陰、忽滿城	自是老來遊興少	春風何處不堪行	王安石
16		一年春事又成空	擁鼻微吟半醉中	夾路梅花新過雨	馬蹄無處避殘紅	張公庠
17		三月殘花落更開	小簷日、燕飛來	子規夜半猶啼血	不信東風喚不來	王逢原
18		平生得志在烟霞	失却黃塵負歲華	過了海棠渾不省	夢中猶自詠梅花	嚴粲
19		鳩雨收声晚色濃	遊絲飛過女牆東	倚欄識得春畝路	半在濛、芳艸中	鄭德源
20		院竹無人夢自回	落紅点、着蒼苔	春愁本自模糊在	歷、子規啼出来	艾苗舩
21		綠樹陰、覆短牆	煮茶烟裡落花忙	此心無事天寬大	幽夢一 _盪 春昼長	陳胡子
22		兩三点雨淡烟裡	四五声鶯濃綠中	吹尺殘紅無可落	晚來閑却一簾風	陳元信
23		紅紫吹成陌上塵	欲留春事已無因	一般情緒兩般患	半送行人半送春	函西士
24		春寒惻、掩重門	金鴨香殘火尚温	燕子不來花又落	一庭風雨自黄昏	趙子昂
25		戀樹殘紅湿不飛	楊花雪落水生衣	年來百念成灰冷	無語送春、自歸	歐陽伯威
26		為怜紅杏亞枝斜	看到斜陽送乱鴉	又是一春窮不死	天教留眼看鶯花	同
27		江花淡、水光明	岸柳風輕雨乍晴	故旧不來春已老	空看燕子逐流鶯	僧牧隱
28		炉烟蕪尽冷衣篝	長樂鐘声半入樓	燕子不畱春夢斷	刺桐花月上簾鈎	柴仲山
29		坐到心清有妙香	蒲團紙帳任更長	閑門不愛庭前月	分付梅花自主張	陳藏一
30	春曉	黃鸝啼断雨濛、	生意晴光暖鷲中	一艸不花春有恨	曉來籬落尽東風	刘声伯
31	春寒	春艸平蕪烟雨迷	秋千寂寞旧園池	江南也是東風惡	花骨輕寒瘦不支	趙信菴

第_五集_五在_之除_之

32 (夏)

赤日燒雲汗滿衫 一年還却十年閑 男兒不是憂家國 水簾紗厨昼掩閑 須平甫

33

春尺餘寒□却回 江天五月未聞雷 南風祇在浮雲外 彈折朱絃喚不來 黃晋卿

34

岸柳風摧更更綠饒 檻花當暑自紅嬌 流行一氣元無息 松柏何妨独后凋 刘平国

35 暑夜

此夜炎蒸不可當 開門高樹月蒼蒼 天河只在南樓上 不借人間一滴涼 僧季潭

36

暑氣蒸人坐夜分 齋居無地避如焚 幾時何處秋孤冷 作意將身入鴈群 同

37 午熱

矮屋炎天不可□ 高亭爽氣亦全無 微風不被蟬飡却 留*些凉到老夫 楊万里

38 取凉

六月冷官還解熱 解衣盤礴坐蒼苔 微風只在松梢上 着意招呼呼來不下来 洪舜愈

39 秋夜

秋氣滿堂孤烛冷 清宵無寐憶山眠 窓前月過三更后 細竹吟風似雨微 刘得仁

40

蛩声咽絕雁声乾 愁滿西風曉夢寒 霜月不知人独夜 窺簾照枕故團團 吳仲權

41

雁落西風字、沈 嬾凉偷入藕花心 眼前多少関心事 付与寒蛩徹夜吟 孫存吾

42 秋声

大塊純音不可窮 誤傳紅葉響西風 不知天籟自疏越 長寄虛無縹緲中 黃叔方

43 晚秋

籬菊有英工冷淡 老梅無葉試欹斜 化工不隔銅瓶水 一夜芙蓉三四花 李南金

44

夢醒客枕漏初殘 斜倚高樓月滿欄 水乙潮東回寄音信 芙蓉花老鴈声寒 *

45 冬夜

活火煎茶興未闌 簷花細雨夜生寒 看梅却恨窓無月 疎影何妨把烛看 周伯弼

46

虚堂人靜不聞更 独坐書灰對夜灯 門外不知春雪霽 半峰残月*溪水

- 47 (元日) 消夜香盤不住烟 女郎呼伴坐灯前 数残二十五声点 昨日回頭是去年 黃子魯
- 48 (立春) 宴罷辛盤轉曉風 乾坤生意浩無窮 宿雲新捲山前雨 元氣淋漓萬木中 周衡之
- 49 聞說黃昏始得春 朝來霧氣已氤氳 凶前蜂子堦前蟻 早得暄風不怕人 何子蕃
- 50 立春后作 東君珂珮響珊珊、 青馭多時下九闕 方信玉霄千里 春風猶未到人間 王初
- 51 半夜新春入官城 平明銅雀綠苔生 浮漸把斷春風路 訴与青州借援兵 蕭十岩
- 52 (寒食) 二月江南花滿枝 他鄉寒食遠甚悲 貧居住、無烟火 不独明朝為子推 孟雲卿
- 53 荒塚無*捧土修 夕陽芳艸替生愁 路傍□是誰家子 猶把花枝插滿頭 僧聖徒
- 54 拜掃無_レ辺骨肉親 一年唯此兩三辰 冢頭莫種有花樹 春色不闕泉下人 *
- 55 客中清明 客中今日最傷心 憶着室山松樹林 白石岡頭聞□雨杜宇 見他人墓亦霑襟 戴復古
- 56 吳松江上看春雨 客路扁舟三月行 兩岸人□插楊柳 不知今日是清明 僧季潭
- 57 上巳祓禊 暗風麗日滿芳洲 雲幕春筵祓錦流 皆言曲侍瓊溪宴 暫侶乘槎天漢遊 徐彥伯
- 卷之四
- 58 立秋前一日留杭 三茅觀裡五更鐘 聽与寒山半夜同 明日秋風入城郭 客樓無處避梧桐 翁時可
- 59 立秋 懶任山中歲月流 不知曆日到床頭 風吹一葉辭庭樹 始記今朝是立秋 曹擇可
- 60 (七夕) 鸞扇斜開分几幄開 星橋橫道鸞飛回 爭將世上無期別 摸得年、一度來 李商隱
- 61 一道鵲橋橫渺、 千尋玉珮過玲、 別離還有經年客 悵望_レ知、河鼓星 徐凝
- 62 雲幙無波斗柄移 鵲慵烏慢得橋遲 若教精衛填河漢 一水還應有_レ尺時 晏叔原

- 63 金針插並玉搔頭 月落河傾尚倚樓 細認双星還自感 別離到底一般愁 武朝宗
- 64 (中秋) 万里秋空掛玉盤 瓊樓杳、想高寒 四時此月曾無別 人自今宵別眼看 張景安作
- 65 無雲世界秋三五 共看蟾盤上海涯 直到天頭天尽、 不曾私照一人家 曹松
- 66 夜、池边待月生 却愁此夜易天明 憑誰引取天秋水 添入銅壺報曉更 刘無競
- 67 王母粧成鏡未收 倚欄人在水精樓 笙歌莫占清光尽 留与溪翁一約舟 成文幹
- 68 千里星河一鏡圓 杜陵兒女隔秋烟 遥怜此夕柴門裡 相對清樽說去年 鄧德良
- 69 去年今夜在南州 還为清光上驛樓 宛是依、旧顏色 自怜人換幾般愁 裴夷直
- 70 中秋無月 春花秋月兩尤物 不雨即風天靳之 人世悲歛類如此 驪山宮殿艸離、 張明遠
- 71 (重陽) 人生悲歛自不同 莫将一樣看西風 今朝憶着茱萸賜 幾個夔州白髮翁 周小溪
- 72 九日遇雨 万里驚風朔氣深 江城蕭索昼陰、 誰怜不得登山去 可惜寒芳色似金 薛能
- 73 除夜 一盃歲酒莫留殘 坐看新年上鬢端 只恐梅花明日老 夜瓶相對不知寒 陳去非
- 卷之六
- 74 (晚) 白霧蒼烟惨淡間 鷄声和月在前湾 楓林渡口捻如失 只有元暉數筆山 黃希宗
- 75 池荷衰颯匆芬芳 策杖吟詩上草堂 滿日暮雲風卷尽 群樓寒角数声長 僧子蘭
- 卷之七
- 76 野花 入眼亭花易動人 曉纔把玩晚泥塵 何如淡、籬根下 随分榮華過一春 王子原
- 77 接花果 范叔受刑爰張祿 公輸投投斧習宣尼 人言妙手移天巧 不見流通一氣時 危逢吉

78	(梅)	實成慎勿望調羹	只有商宗能用卿	鼎味從來甘受和	恐君酸不入侯鯖	李商□
79		紛、蜂蝶莫教知	竹外疎花一兩枝	待得枝頭春爛熳	便知詩到晚唐時	鄭頊
80		玉簫吹徹北樓寒	野月崢嶸動萬山	一夜霜清不成夢	起來春信滿人間	穀城黃銖
81		霜冷雲寒特地開	高標元是衆芳魁	灵均不敢輕題品	誰道離騷忘却梅	趙君實
82		鉄面蒼髯洛陽客	玉顏紅頰會稽仙	街頭相見如相識	恨滿東風意不傳	陳去非
83		精神明潔思無邪	妙處何須藉月華	万紫千紅誇富貴	幾生修得到梅花	鄭大東子
84		竹外橫斜三兩枝	暗香那得好風吹	見梅不可無詩耳	未必梅花要此詩	郭廉翁
85		聞說梅花拆曉風	雪堆遍滿四山中	何方可化身千億	一樹梅花一放翁	陸務觀
86		梅花樹下黃茆丘	古人尚能愛花不	月淡烟深橫牧笛	死生常事不須愁	同
87		一花兩花春信回	南枝北枝風日催	爛熳却愁零落近	丁寧且莫十分開	同
88		万瓦清霜夜漏殘	小亭斜月過欄干	老来一事偏惆悵 _{堪恨}	好看梅時却怕寒	同
89		幽谷何堪更北枝	年、自分着花遲	高標逸韵君知否	正在層冰積雪時	同
90		孤山处士風流遠	招得梅花枝上魂	疎影橫斜猶昨日	不知人世幾黃昏	徐抱独
91		玉神何事帶紅綃	未讓胭脂与杏花	天下更無清可比	湘纍不敢入離騷	僧雪岑
92		看花獨立澗之濱	欲折芳枝恐損神	南国幾年無驛使	憑誰寄与隴頭人	僧季潭
93	紅梅	苧蘿山下越溪女	戲作長安時世粧	白、朱、雖小異	断知不是百花香	陸務觀
94		施朱太赤非閭染	映日多情不為酣	錯認杏花休拳似	北人強半在江南	僧道原

- 95 姑射真人笑臉開 肯將顏色澆香腮 仙遊曾打桃源過 引得春風上面來 僧無文
- 96 南枝向暖北枝寒 一種春風有兩般 憑仗高樓莫吹笛 大家留取倚欄干 刘元載妻
- 97 雪梅 東郭先生破履痕 瘦筇歷、自尋春 千林一樣模糊白 人不見花、見人 胡德昭
- 98 月梅 倚樹徘徊有所思 小窓西畔影參差 孤山旧有橫斜句 底用沉吟更作詩 同
- 99 山梅 無人知我歲寒心 亂樹繁藤翳翠中 竹外一枝人便覺 入林正恨不能深 同
- 100 江梅 玉立湘妃蘭若洲 淒涼心事水東流 滿汀沙月痕、白 知有何人會此愁 同
- 101 籬梅 甘处荒寒寂寞濱 此兄元自不嫌貧 竹籬茆舍詩人屋 正与玉堂同此春 同
- 102 竹間梅 古梅半樹竹相侵 密翠周遭不可尋 斜放一枝穿出去 此君應有不平心 同
- 103 瓶梅 香骨和水帶_乙痕_乙剪 膽瓶斜插水晶寒 一枝摘索春無忌 底用楊州繞樹看 同
- 104 烛下看梅 銀花斜照數枝橫 夜半寒生玉骨清 竹外黃昏晴雪后 不如窓下見分明 王洌伯
- 105 探梅 后五百年無放翁 狂歌醉舞与惟同 漁人入得桃花洞 猶有梅花路不通 刘須溪
- 106 憶梅 孤山惜別已多時 風月無媒雁信稀 夢裡相逢心未穩 尚疑太白夜郎皈 刘叔安
- 107 種梅 鄙事閩人智淺深 漆堪成器楮堪衾 自憐到老猶迂闊 純種梅花作墓林 刘潜夫
- 108 同 典衣了却僦園錢 甘為清香忍一寒 記得幾年風雪裡 傍人籬落借花看 袁幻立
- 109 商洛見梅 紡車山下雪成堆 黃澗溪邊始見梅 山吏不知春色早 却言花是去年開 章子厚
- 110 雪裡看梅 辜負溪邊雪与梅 怕寒不肯出門來 欲邀鄭老同清賞 争得梅花六月開 戴石屏

- 111 (梨花) 玉□精神雪作膚 雨中嬌韻越清曠 若人會得嫣然態 寫作楊妃出浴圖 趙福元
- 112 九月梨花 粉膩迷春月滿枝 誤隨秋日弄芳菲 料應潛作春宵夢 剛被西風不放皈 韓準
- 113 (垂絲海棠) 杜甫從前着句難 紫錦嬌色靠欄干 春風不是開元樣 莫作真妃睡起看 王橘林
- 114 万里橋西老拾遺 兵戈流涕念時危 海棠雖好無心看 正自悲吟病栢詩 江子我
- 115 移根千里入名園 酒暈紅嬌氣欲昏 待得太真春醉醒 風光已不似開元 陳叔茂
- 116 昭陽殿裡醉含情 三十六宮顏色輕 幾向春風憐薄命 少陵詩史不書名 僧肇聖徒
- 117 十月海棠 小春破白惟梅耳 点檢南枝花尚遲 似是天工薄寒素 東風先到海棠枝 鎮景安
- 118 雪裡海棠 蜀妃夜謁紫虛皇 玉鳳參差趣曉裝 宴罷瑤池方熟醉 胭脂臉上白雲香 王子信
- 卷之九
- 119 牡丹 万葉紅綃剪尽春 丹青次第任寫不如真 風光九十無多日 難惜樽前折贈人 盧子衡
- 120 荷花 南浦清秋露冷時 凋紅片、已堪悲 若教具眼高人看 風折霜枯似更奇 *
- 121 風露青冥水面涼 旋移野艇受翠香 猶嫌翠蓋紅粧句 □□人言□六郎 陸放翁
- 122 折荷花 月到軒窓午夜涼 荷□数朵伴□觴 剪時□剪亭、翠 減却鴛鴦夢裡香 陳藍山
- 123 敗荷 江錦機空水国秋窮 頭轉千盖偃秋風 鴛鴦一段榮枯事 都在沙鷗冷眼中 黃濟可
- 124 病中知皇子陂荷花盛發寄王績
- 125 盆荷 十里蓮塘路不賒 病來簾外是天涯 煩君四句遙相寄 應得詩中便看花 裴夷直
- 古瓦□涵天 数□田、貼□錢 才大□来無用□ 不須十□藕如舩 □居簡

126	(荔枝)	遐方不許貢珍奇	蜜詔唯教進荔枝	漢武碧桃爭比得	枉令方朔号偷兒	韓偓
127		封開玉篋鷄冠洪	葉襯金盤鶴頂鮮	想得佳人微露齒	翠釵先取一枝懸	同
128	(芙蓉)	白髮飄蕭一病翁	暮年身世葉飄中	芙蓉墻外垂、發	九月憑欄未怯風	陳去非
129	木芙蓉	少皞鳴鞘迅去程	群仙宴餞向津亭	却嫌祖帳金風冷	綠她紅嬌作軟屏	謚子仁
130	山礬	折來隨意挿銅壺	能白能香雪不如	匹似梅兄輸一着	枝肥葉蜜欠清癯	雛子順
131	牽牛花	銀漢初移漏欲殘	步虛人倚玉欄干	依衣染得天邊碧	乞與人間向晚看	秦少遊
132	同	曉思歡欣晚思愁	繞籬榮架太嬌柔	木犀未發芙蓉落	買斷西風恣意秋	楊廷秀
133	紅槿花	花是深紅葉麴塵	不將桃李共爭春	今日驚秋自冷落客	折來持贈少年人	戎昱
134	槿花	風露凄、秋景繁	可憐榮落在朝昏	未央宮裡三千女	但保紅顏莫保恩	李義山
卷之十						
135	木犀花	金粟如來古佛裝	愛燒沉水供諸方	西風散作曼陀雨	遍滿三千世界香	李商卿
136	(菊花)	秋荒遠舍似陶家	遍遶籬辺日漸斜	不是花中偏愛菊	此花□ _發 更無花	元稹
137		寒花豈与凡花比	占斷秋光品格高	敢對渠欵醉帽	銅炉一穗讀離騷	鎮景安
138	栽菊	移黃菊不嫌遲	晴日霜庭晚更宜	閑倚石欄衫袖薄	偶然秋思入新詩	盧蒲江
140	楊妃菊	新分菊種自鋤山	手□枯藤作□欄	比似□書空用□	種花猶得一年看	高九万
141	十月菊	玉環一点旧香魂	流落東籬艸樹根	猶作竟裳嬌媚態	零紅墜粉濕秋痕	張方叔
		殿重陽九□期	金英新開兩三枝	客非靖節來休問	隱逸風□不入□	僧良即休

- 142 五月菊 東籬千古屬重陽 此本偏宜夏日長 會得溷明高臥意 故來同占北窓涼 宋壺山
- 143 黃白菊花 何處金錢與玉錢 化為胡□夜翻、 青□綱在芳□上 開作□花取意妍 玉屑
- 144 (蘭花) 絕無人處有香飄 樹底岩根雪未消 □古醒魂招□返 晚風斜日恨蕭、 僧□擊
- 145 竹底松根慣寂寥 肯隨桃李媚□曹 高名厭尺離騷卷 不入離騷更自高 許忱甫
- 146 感蘭 幽花一似古君子 色不媚人唯有香 奈爾春風無好醜 故令荆棘過渠長 僧道原
- 147 (薔薇) 一朵長條百朶春 嬾紅深□小窠勻 □應根下千年工 曾葬西川織錦人 李益
- 148 (芭蕉) 瓦溝月暗亂螢飛 照見芭蕉葉上詩 憶得前時吟最苦 自携殘燭拂蛛絲 僧藏叟
- 149 韋使君宅 海榴詠 淮陽臥裡有清風 臙月榴花帶雪紅 閉閣寂寞常對此 江湖心在數枝中 皇甫孝常
- 150 (水仙花) 借水開花自一奇 水沈為骨玉為肌 暗香已壓餘醺倒 只比寒梅無好枝 溫飛卿
- 151 玉簪花 燕罷瑤池阿母家 飛瓊扶上紫香車 玉簪墜地無人拾 化作東南第一花 *
- 152 懷小栢 手種庭前小栢樹 分枝散葉綵天成 涉旬不見長相憶 況是經年別友生 范德機
- 153 老檜 皮幹鱗皴耐得寒 誰能移植倚欄干 四時謾有不凋色 近日人多種牡丹 趙慶大
- 154 挿檜 檜枝蒼翠色長鮮 雙耳銅壺浸石泉 粧点吟窓似僧舍 一春不費買花錢 錢少章
- 155 竹 籬外清陰接葉欄 晚風交戛碧琅玕 子猷没后知音少 粉節霜筠漫歲寒 羅隱
- 156 新竹 東風弄巧補殘山 一夜吹添玉數竿 半脫錦衣猶半着 籊龍未信沒春寒 楊廷秀
- 157 熱屋官舍 新竹 心覺清涼舄似吹 滿風輕撼葉垂、 無端種在幽閑地 衆鳥嫌寒鳳未知 薛能

- 158 筇 數步春畦獨步尋 迸犀抽錦蠹森、
□文死去賓朋散 拋擲三千玳瑁簪 王元之
- 159 無筇 暖透苔痕三徑深 竹根稚子竟潛身 疎林自要添風月 豈是雲山不受春 陳野雲
- 160 因宮代松 大夫去作棟梁林 無復清陰綠詠苔 只恐江頭明月夜 誤他千里鶴皈來 胡尊生
- 161 禁中新柳 万條金線帶春烟 深染青絲不直錢 又免生當離別地 宮鴉啼處禁門前 施肩吾
- 162 柳絮 柳送腰肢日幾回 更教飛絮舞樓臺 顛倒忽作高千丈 風力微時穩下來 陳去非
- 163 (柳) 城外春風吹酒旗 行人揮袂日西時 長安陌上無窮樹 唯有垂楊管別離 劉禹錫
- 164 綠樹千絲更万絲 春風到处一般吹 離愁結在長亭路 不似珠廉側畔垂 杜子昕
- 165 枝鬪腰纖葉鬪眉 春來無处不成絲 灞橋陵原上多離別 少有長條拂地垂 韓成封
- 166 宜風宜雨又宜時 纔弄黃時便轉青 非是管人離別恨 生來多近短長亭 陳仲謀
- 167 渭水橋邊送別時 馬前折贈笛中吹 若教繫得離情住 何必千絲又万絲 僧雪岑
- 168 百花洲畔覆青坡 第五橋頭蘸碧波 八管竈笙春寂、 綠陰終日伴漁歌 僧季潭
- 169 又(苔錢) 山居雨后蘚紋斑 滿地錢流疊翠團 若是得之能使鬼 多應不到野人看 葉秀實
- 卷之十二
- 170 內宮月 三十六宮秋夜深 昭陽歌斷信沈、 唯應相伴陳皇后 照看長門望幸心 杜牧之
- 171 天山月 寂寞寒光照鉄衣 関西老将老眠遲 絕怜青塚愁雲裡 猶自嬋娟字*眉 趙漢宗
- 172 京城翫月 秋滿西湖月正圓 家、醉賞倚欄干 西風茆葦長淮地 應有征人帶泪看 盧登甫
- 173 (月) 嫦娥竊藥出人間 藏在蟾宮不放還 后羿遍尋无覓处 誰知天上亦容姦 袁郊

174	雪月	霜月輕吹小夢回	雪窓撩得眼增明	月明幸自無人覓	誰遣梅花送影來	楊濟翁
175	片雲	水底分明天上雲	可憐形影似吾身	何妨舒作從竜勢	一雨吹消万里塵	僧齊己
176	(風)	拂、林梢抹淡烟	牆桃初試小晴天	東風也似人情薄	便掉寒梅在一邊	闕謙甫
177	北風	北風捲地起黃埃	羈、成陰約不開	淮艸蕭、無着処	却愁吹得過江來	傅汝霖
178	天陰	數日陰雲斷復連	不成輕暑不成寒	天公也似摸稜手	欲雨欲晴持兩端	趙仁甫
179	聽雨	少年交友尽豪英	妙理時、得細評	老去同參推夜雨	焚香臥聽畫簾声	*
180		遠簷点滴如琴筑	支枕幽齋聽始奇	憶在錦城歌吹海	七年夜雨不曾知	陸務觀
181	夏雨	脩然一雨送輕颺	客夢驚回夜寂寥	剛道是晴還未信	檐声和月落芭蕉	孟叔異
182	中秋雨	雨声敲作桂花寒	書伴孤灯照老顏	月色正供金闕宴	分光應不到人間	張子竜
183	夜雨	未到黄昏緊閉門	怒雷挾雨過前村	老夫熟睡渾不覺	風捲濤声入夢魂	滕玉霄
184		夜雨漲波高一尺	*却老夫平生石	明朝水高落石依然	老夫一夜空相憶	僧義銘
185	月中雨	半池明月晒金波	一片秋声出敗荷	莫怪閉門先睡去	客中聽雨不宜多	黃孝邁
186	江上雨過	一雨西來正掃空	臥堤楊柳又橫風	冷雲壓地暮江急	無数人家水墨中	魏南天
187	雨意	雲頭点地黑如黥	雨脚粘天未敢飛	待得風师来判断	一齊併作晚凉皈	鄭清之
188	閔雨三首	陌上冬乾泣老農	天留甘雨付春工	阿香爭、試雷霆手	莫放人間有臥竜 _乙 急	朱喬年
189		潭底乖竜喚不磨	驕陽似欲敗西成	虚堂永夜耿無寐	起聽四郊車水声	鄭毅夫
190		鳴鳥下飲百川空	民自祠竜禱社公	豈是長官渾忘却	水車声不到城中	刘潜夫

191 澹水 車倦人煩渴思長 岩中冰片玉方成 老仙*我塵勞學久 乞与雲膏洗俗腸 程伯淳

卷之十三

192 江霧 紛、一氣裹空長 絕与鴻濛未判同 無數過舫看不見 人声却在槽声中 蕭則陽

193 (雪) 蕪、天花落未休 寒梅疎竹共風流 江山一色幾千里 酒乃消時正倚樓 高子文

194 瑞應豐年喜欲跳 曉晴纔見十分清 探梅準擬前村去 先遣家童拂石橋 曾叔良

195 春雪 欲積高深自不成 霏、連日尚縱橫 隨風強作楊花舞 便向簷間作雨声 *

196 眼看平白失前坡 三日青松奈老何 昨夜東風消不尽 古牆陰处晷猶多 *季潭

197 普天銀色變山河 西望群峰湧白波 旧讀楚*今始信 層冰積雪正峨、 趙子昂

198 江雪 人道歐閩不識寒 北風吹雪夜漫漫、 斷蓬折葦滄江上 只作淮南旧日看 僧聖徒

199 (雪) 隨風拂、玉花飄 入夜寒牕更寂寥 炉火已殘灯欲煠 一簾疎竹白蕭、 呂信臣

200 釣雪 長江渺、浸同雲 六出飛花着地新 老叟持竿鬪妍冷 飯來贏得一簑銀 余貴又

201 (雷) 閑人倚柱笑雷公 又向深山霹怪松 必若有蘇天下意 何如驚起武侯童 乾致元

卷之十五

202 漁舟 莫笑扁舟數尺長 幾經烟雨浸湘瀟 江舡个、高於屋 未必荷花入夢香 宋器之

卷之十八

203 (笛) 春風橋畔吹羌笛 遠客興悲淚泫然 傍有老兵心似水 防秋边上聽多年 方君遇

204 立□蓮塘吹橫笛 微風動柳生水波 北人聽罷泪將落 南朝曲中恨更多 韋應物

205	冬夜聞角	嫋、清笛入雪雲	白頭老守臥中軍	自怜到老懷遺恨	不向居延塞外聞	*放翁
206		何處吹笳薄暮天	塞垣高鳥沒狼烟	遊人一聽頭堪白	蘇武爭禁十九年	杜牧
207	鞭	一節高兮一節低	幾回敲鞞月中皈	雖然三尺無鋒刃	○方乙百雄師屬指揮	伯顏丞相
208	聞鳥聲有感	流年冉、去無情	日夜溪頭布穀聲	城郭雖存人換尺	令威可悔學長生	陸務觀
209	枯枝寒禽	王母宴畝西海上	空留青鳥羽參差	黃雲苦竹江南雪	獨立寒條歲晚時	簷同文
210	春禽	乱花枝上訴東風	一半身沾杏雨紅	春事等閑渾說破	何如留在不言中	宋器之
211	南海食蜺	五年所重處有辺炬會				
212	鶴鶴	湖平蜺艇傍船畝	買蜺辺炬亦自奇	齒頰有餘風味薄	一檠秋影晚唐詩	彭復雅
213	(鶯)	斷石殘芦雪半消	悲鳴如念弟兄遙	北風原上重回首	愧殺淮南尺布謠	僧一初
214	鶯	風花猶及見春和	無限青陰取次過	隔葉未須聽百囀	世間好語誤人多	羅永年
215	鶯	擲柳迂喬太有情	交、時作弄機聲	洛陽三月春如錦	多少工夫織得成	刘后村
216	(燕)	兩個黃鸝繞樹飛	不愁寒雨濕金衣	青山到处多幽谷	底事秋深尚未皈	僧季潭
217		一年一度客天涯	春社來、秋社皈	自是畫堂栖上穩	不知何事憶烏衣	刘克莊
218	新燕	碧綃齊剪*差池	旧侶新巢費支持	應是畫堂簾未捲	一双猶舞綠陰低	施定子
219	(子規)	燈花徹夜落還開	争把明朝喜事猜	午枕起来無个事	一双新燕入簾來	闕謙甫
		杜宇声、怨不皈	蚕鼻国破事還非	皈應添得無窮恨	不似蘇耽了令威	姜邦闕

卷之十九

236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224	223	222	221	220
(鶴)	(鷺)		(鴛鴦)			雁字	解嘲杜鵑									
天上瑤池覆五雲	漠、江湖自在飛	蘋洲花嶼接江湖	翠翅紅頸覆金衣	客裡緘書寄厂皈	虹影浸塔驟雨餘	起然聖処勝張顛	神武門頭穩掛冠	燕山三月初三夜	今古相傳望帝魂	旧艸堂東水竹西	哀、不叫銅街月	春尽江南綠正肥	錦水浮萍不計春	三月江南花□開	南人一聽一悲涼	声、啼血染殘春
玉麟金鳳好為群	一身閑処占漁磯	頭白成双得自如	灘上双、去又歸	吾家松逕□□扉	声、新厂度雲衢	整、斜、落照辺	至今猶頌二疎賢	聞得啼鵑第一声	見之再拜□孤臣	年、只与落花期	長叫岩花在翠陰	声、蜀魄泣斜暉	一枝聊寄倦遊身	啼教花□□蒼苔	怜尔西皈蜀路長	怨殺當年右帝灵
不須更飲人間水	稻田水淺魚能幾	春晚有時描一對	長短死生無兩処	天□□遠應難認	弯弓欲射仍停手	好寫人間不平字	試將史傳從頭讀	同是小樓孤烛下	天津□上人初聽	長亭今夜声連曉	非是愛喧幽谷耳	岷峨見說辺烽滿	天長翼短無皈処	若嫌此地非君土	聞說雲安啼更苦	縱尔欲皈、何処
直是清流也汚君	莫被泥沙汚雪衣	日長消尽繡工夫	可怜黃鵠愛分飛	、取白雲飛処飛	只恐燕山有帛書	叫開閭闔為箋天	不說西京有杜鵑	主人眠熟客心驚	腸断江南三月春	愁似經年病拾遺	自緣朝市少知心	休澆寒林恨未皈	閑把心情勸別人	今度皈來時莫更來	不知何処的為鄉	蜀山不是旧時青
*	趙希煎	曹組	吳融	陳本中	薛新甫	陳明甫	僧北磻	范約莊	僧正徒	僧北磻	陳伯和	曾景純	曾茶山	趙紫芝	*	錢子漸

237

九臯清響漏殘時

想見松間露濕衣

弱水弗闕雲外路

乘軒終不似橫飛

僧北磻

238 (鷗)

霜毛渾不染纖埃

相伴蘋花幾度開

塵世累傳人有約

沙頭只見鷺鷥來

宋器之

239 桃花馬

白毛紅点巧安排

勾引春風背上来

莫解雕鞍橋下洗

恐隨流水泛天台

馬伯庸

240 詰猫

古人養客乏車魚

今汝何功客不如

飯有溪魚眠有愁

忍敢鼠囓案頭書

劉潛夫

241 鼠

業為鼠技不能群

酷似狼貪却畏人

歃血未乾猶竊粟

豈應秦了又生秦

僧橘州

242 鬪雞

天寶三郎好鬪雞

醉中宮錦賤如泥

沉香亭北花含笑

不管漁陽胡馬嘶

僧藏叟

243 荈竹雞

山行三日壓泥行

幸自今晨得一晴

又聽數声泥滑

情知浪語也心驚

楊廷秀

卷之二十

244 秋蠅

秋蠅知我政哦詩

得、綠眉復入髭

欲打群飛還歇去

風光乞与幾多時

楊廷秀

245 (蝶)

輕、舞態怯春寒

蜚入花叢立未安

桃李自於春富貴

年、只作夢中看

宋器之

246 (蟬)

夕陽枯木乱蟬鳴

野露充飡一腹清

若近栢梁臺下宿

羽虫部裡合長生

徐山玉

247 說露談風有典章

詠秋吟夏入宮商

蟬声無一些煩惱

自是愁人枉斷腸

楊廷秀

248 一殼空、紙樣輕

風前却有許多声

叫來叫去渾無事

叫到詩人白髮生

楊廷秀

249 (昆虫)

度水穿雲蜜又疎

紗囊曾聚旧茆庐

畫堂銀烛明如昼

只照笙歌不照書

僧以仁

250 (蜘蛛)

網羅最蜜是蛛絲

却被秋蚊聖得知

粘着便飛來不再

蛛絲也。有、解疎時

楊廷秀

251 蒼蛙

兩蛙盛怒鬪春池

群吹同声徹曉帷

等是一物狼藉去

更無人与問公私

朱元晦

252 觀蟻

一騎初來隻又双

全軍突出陳成陣

行 策勳急報千夫長

渡水还爭一葦航

楊廷秀

253 蚕蛾

不願全身願奏功

感君卯翼見初終

早知猶有兒女累

悔不只從渴沐封

*

254 網魚

船頭撒網小兒撐

網得魚來便煮羹

是則別無它富貴

也勝徒手問功名

宋器之

255 盆魚

數頭鮮活養恩波

瓢飲相忘較幾何

小水固知無甚樂

五湖烟浪曲鈞多

僧以仁

256 □紆魚

哆口昂藏派玉川

背衣疎印墨光鮮

被渠喚起思吳興

夢入芦花刺釣船

李南金

257 烏賊

秦帝東巡渡浙江

中流風緊墜書囊

至今取得磨殘墨

猶帶宮車載鮑香

楊万里

258 (食蟹)

寒汀沙落接平坡

就縛纍、可奈何

只道火攻為下策

到頭水戰亦投戈

黃叔方

259 糟蟹

旧交髻薄久相思

公子相從独味長

醉死糟丘終不悔

看來端的是無腸

陸放翁

260 燒蚤

饕虱不逃湯沐賜

饑蠅終受劔鋒摧

君才十倍曹不輩

秉畀祝融心始灰

李公甫

後集卷之七

261 煎茶

午鼎松声万壑餘

蒲團曲几未全疎

春風肯入薑塩手

不癡秋窓一夜書

僧橘州

卷之九

262 謝惠茶

白髮前朝旧史官

風炉煮茗暮江寒

蒼竜不復從天下

拭泪看君小几團

韓子蒼

263 (謝送酒)

温如春色爽如秋

一榼樽前自獻酬

百万愁魔降未得

故應用尔作戈矛

林和靖

(止)

〔校記〕

凡例

前編『千家詩選』書入本文の番号下に、左記の符号を用い、『新選集』中での編目と、題目や本文の異同を記した。

a..起句 b..承句 c..転句 d..結句 z..作者

□..原本破損 *..欠文 #..兩本附「作」字

兩..建仁寺兩足院藏本 内..内閣文庫藏本

尚、二本に共通する場合は、校本名を省略した。

1	節序	a..雨脱(内)			
2	同	春日作 b..間作問(内)			
3	同	又(春日作) c..無上語字 z..*有寇字			
4	同	又(春日作)			
5	同	又(春日作)			
6	同	又(春日作) a..陽作傷			
7	同	又(春日作)			
8	同	又(春日作) a..古作石(内) 字作事(内)			
9	同		c..破鳥作鳥破		
10	同	又(春日作)	a..帳作帳(内) 寒作闌(兩) 閑(内)		
11	同	又(春日作)	c..萱作管(内)		
12	同	又(春日作)	a..看作青(兩) 蒼(内)		
13	同	又(春日作)			
14	同	又(春日作) a..壓作厭 鬢作髮 b..閑作閑			
15	同	# a..柴作紫(内) d..春作天(内)			
16	同	(#) a..空作定(内) c..梅作桃			
17	同	(#) b..簷作檐(兩) 欄(内) c..子作千(内)			
18	同	(#) 夜半作半夜(兩) b..却作脚			
19	同	(#) b..絲飛二字在行脚(内)			
20	同	(#) b..蒼作蒼(内) c..本自作自本(内)			
21	同	(#) 糗作糗(兩) z..苗作苗			
22	同	(#) z..胡作明			
23	同	(#) c..患作患 z..函作函			

42	同		b..西作秋
41	同	(#)	
40	同	(#)	a..咽作明(内) d..簾作簷
39	同	#	b..宵作霄(内) d..微作聲
38	同		c..上作頂
37	同		a..□作居 b..亭作天 d..*有得字
36	同		
35	同		
34	同	夏日#	d..妨作好(内)
33	同	又(夏日)	a..□作去
32	同	又(夏日)	a..汗作汗(内)
31	同		b..秋千作鞦韆 d..輕作經
30	同	(*内)	
29	同	又(春夜)	c..閑作閑 愛作受(兩)
28	同	又(春夜)	(#)
27	同	(#)	b..乍作半(内)
26	同	(#)	
25	同	(#)	
24	同	(#)	d..庭作簾(内)
43	同		
44	同		z..僧介石
45	同	(#)	a..火作大(内) b..簷作檐(兩) 欄(内)
46	同	(#)	花作前(改花)(兩) c..看作有 窓作自
47	同		a..聞作闌(兩) c..外作前(兩)
48	同	立春	d..*有一字
49	同	又(立春)	d..得作倚
50	同	又(立春)	
51	同	又(立春)	a..官作管 d..訴作新 z..脱(内)
52	同	寒食	b..甚作堪
53	同	又(寒食)	a..*有人字 c..□作知
54	同	寒食野望(内望脱)	a..辺作過 骨脱(内)
55	同		c..冢作塚 z..熊孺登(内下二字轉)
56	同	吳松江上清明(内上作逢)	a..心作情(兩) b..室作家 c..無□雨二字
57	*		c..□作家
58	節序		a..茅作茆(内)

- 59 同 b.. 到作在
- 60 同 七夕 a.. 無上開字 c.. 期作斯(內) d.. 摸作換
- 61 同 又(七夕) b.. 珮作佩 c.. 還作遠(內) 客作別(兩)
- 62 同 又(七夕)
- 63 同 又(七夕) d.. 愁作秋(內)
- 64 同 又(中秋) d.. 宵作霄(內) z.. 無作字
- 65 同 又(中秋) c.. 作處
- 66 同 又(中秋) c.. 無天字 z.. 無作元(內)
- 67 同 又(中秋) c.. 尽作冷(兩) d.. 約作鈞
- 68 同 又(中秋) z.. 德良作僊原(兩)
- 69 同 中秋 z.. 夷作度(內)
- 70 同 z.. 遠作達
- 71 同 重陽 a.. 歡作權(內)
- 72 同
- 73 同 b.. 坐作生(內)
- 74 同 晚 c.. 口作日(內) z.. 宗作宋(內)
- 75 同 又(晚) c.. 尽作尺(內)
- 76 草木 z.. 原作厚
- 77 同
- 78 同 梅 b.. 只作口(內) z.. □作卿
- 79 同(*兩) 又(梅) d.. 知作如(內) 時作詩(內)
- 80 同 又(梅) z.. 實作宝(內)
- 81 同 又(梅)
- 82 同 又(梅) b.. 頰作領(兩) 領(內) c.. 如作不(兩)
- 83 同 又(梅) d.. 幾字在行脚(內)
- 84 同 又(梅)
- 85 同(*內) 又(梅) a.. 拆作折(兩)
- 86 同 又(梅) a.. 茆作茅(內)
- 87 同 又(梅) c.. 慢作漫(兩)
- 88 同 又(梅) d.. 層氷作增水(內)
- 89 同 又(梅) c.. 橫斜作暗香
- 90 同 又(梅) a.. 綃作梢(內) b.. 花作桃(兩) 挑(內)
- 91 同 又(梅) a.. 澗作礪(兩)
- 92 同 又(梅)
- 93 同
- 94 同 和紅(兩)
- 95 同(*內) 和紅梅(兩)
- 96 同 早梅 c.. 仗作伏(內)

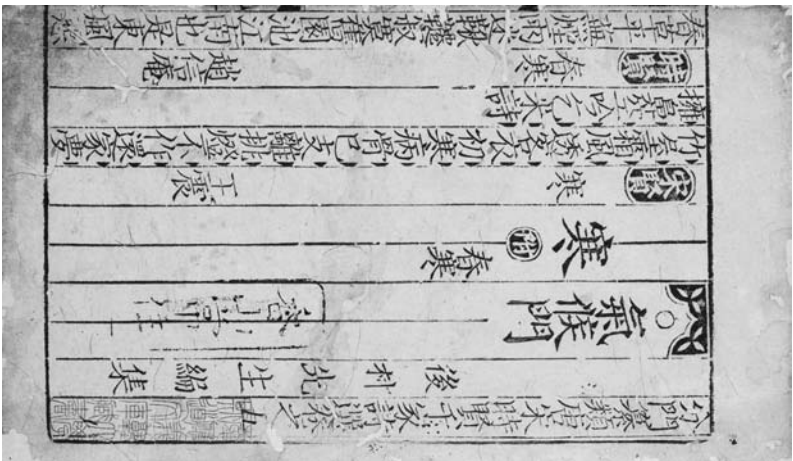
115	同	又(海棠)	c..醉作睡(兩)
114	同	又(海棠)	d..栢作橘 z..我脫(兩)
113	同	又(海棠)	b..欄作闌
112	同		c..宵作霄(內)
111	同	梨花	a..□作作 c..態作躡(內)
110	同		
109	同		c..無梅字(內)
108	同		d..傍作倚(內)
107	同		c..老作死(兩) 老(改死)(內)
106	同		
105	同	(*)內	b..惟作誰(兩)
104	同	烛下觀瓶裡梅花	z..伯作白(兩) 同(胡德昭)(內)
103	同		d..楊作揚(兩) 繞作遶(兩)
102	同		
101	同		c..茆作茅(內)
100	同	紅梅(內)	
99	同		b..中作林 d..恨作覺(兩)
98	同		
97	同		
130	同		
129	同		b..群作郡(內)
128	同	芙蓉	d..風作寒(兩)
127	同	又(荔枝)	
126	同	荔枝	
125	同		用処(內) d..□作丈 z..□作僧
124	同	王作三(內)	a..□□作萍黏 □作水 b..上□作葉下
123	同		a..無秋字 b..頭轉作轉頭
122	同		翠作綠(兩)
121	同		b..上□作花下□作清 c..□作莫
120	同		z..脫(兩) 同(陸務觀)(內)
119	同		z..陸務觀
118	同		d..□□作何況 □作似
117	同		b..無次第二字
116	同	又(海棠)	c..醉作睡(兩)
			z..肇脫(兩)

147	同	薔薇	a.. 采作架 百作万	b.. 嬾作嫩 (兩)	□作綠
146	同		z.. 原作厚 (內)		
145	同	又 (蘭花)	a.. 寂作宗 (內)	b.. □作兎	
144	草木	蘭	c.. 上□作千下□作不	z.. □作元	
143	*				
142	同		b.. 宜作愛 (兩)		
141	同		z.. 無良字 (兩)		
140	同		a.. 上□作雖 下□作日	d.. 上□作標 下□作時	
139	同	采菊	b.. 上□作縛 下□作矮	c.. 上□作著 下□作刀	
138	同		a.. □作旋		
137	同	又 (菊花)	d.. 讀作談 (內)		
136	同	菊花	b.. 秋作愁 (內)	c.. □作不	
135	同		a.. 荒作叢		
134	同				
133	同		c.. 無落字		
132	同		b.. 籬作簷 (內)	采作禁 (改采)	(兩)
131	同		a.. 移作秋 (內)	c.. 依作仙	d.. 晚作曉 (兩)
148	同	芭蕉	c.. □作只 工作土 (兩)	去 (內)	
149	同		b.. 見作看 (內)		
150	同	水仙花 (內花脫)	a.. 裡作理	c.. 寞作寥 (內)	z.. 常作帝 (內)
151	*				
152	草木				
153	同		b.. 倚作傍 (內)	c.. 凋作彫 (內)	
154	同		b.. 浸作侵 (兩)	z.. 章作皐	
155	同				
156	同	新脫 (兩)			
157	同		a.. 數作散 (兩)	上步作畝 (內)	
158	同		b.. 犀作墀 (內)	c.. □作田	
159	同		b.. 稚作椎 (內)		
160	同		a.. 去作知 (內)	b.. 誰作護 (內)	
161	同				
162	同		c.. 倒作狂 (內)		
163	同	柳			
164	同	(*) 又 (柳)			

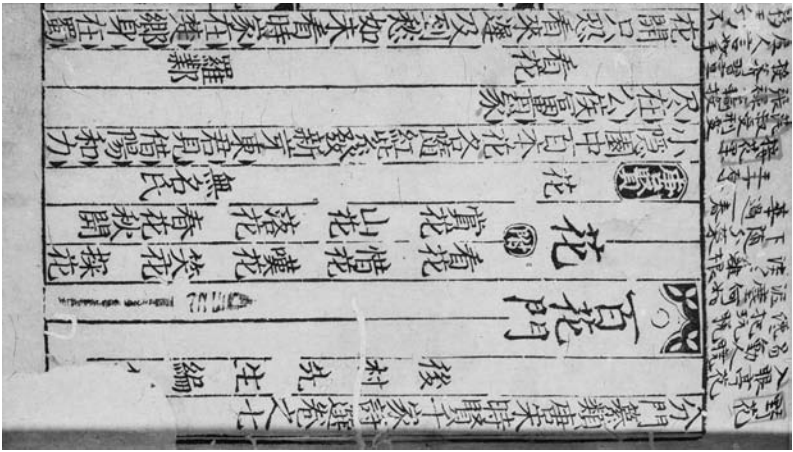
- 182 同 d..光作明(光イ)(内)
- 181 同 a..脩作脩(兩)
- 180 同 又(聽雨戲作) b..齋作齊(内)
- 179 同 聽雨戲作 b..妙作妙(内) c..推作惟 z..陸務觀
- 178 同
- 177 同 b..羃、作幕、(内)
- 176 同 東風 b..牆作縮(兩)
- 175 同
- 174 同 a..月作竹 b..明作開 c..覓作覓
- 173 同 月 d..容作客(内)
- 172 同
- 171 同 d..*作畫
- 170 天文 禁中月
- 169 同 苔錢
- 168 同 (柳) b..波作池(内)
- 167 同 (柳) a..青作春(内) 坡作城(兩)
- 166 同 (柳) a..又作復時作晴 z..牧之作子听(兩)
- 165 同 (*兩) 又(柳) c..無橋字(内) z..封作對(内)
- 200 * 又(夜雨) b..*作失 c..無高字
- 199 * 江上雪 a..歐作甌(兩)
- 198 同 雪中即事 c..楚*作招魂
- 197 同
- 196 同 c..尺作得(兩) z..同(僧季潭)
- 195 同 d..簷作檐 z..僧季潭(兩)同(僧季潭)(内)
- 194 天文 雪 b..十作一 清作消 z..僧季潭(内)
- 193 * d..雲作雪(内)
- 192 同
- 191 同 b..方成作成方 c..*有咲字
- 190 同 又(閱雨) d..*作畫
- 189 同 又(閱雨)
- 188 同 無三首二字
- 187 同 b..敢作肯 d..併作伴(内)
- 186 同
- 185 同 d..聽作聞(内) z..孝作考(内)
- 184 同
- 183 同 a..閑作閑

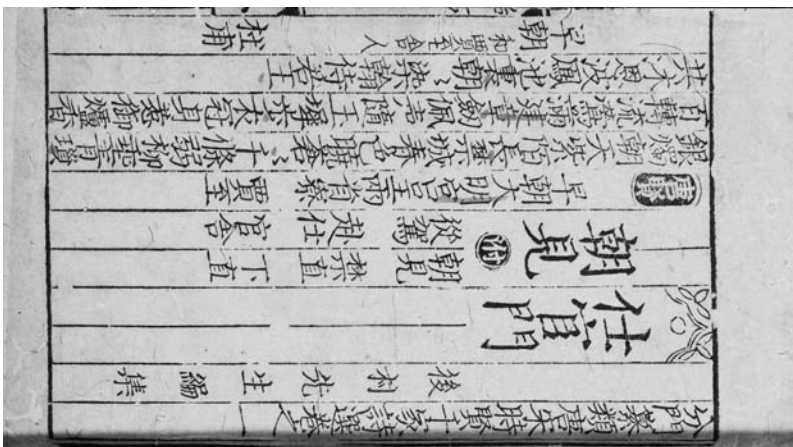
201	天文	雷	a..笑作咲 c..意作雨(內) z..乾作韓(兩)
202	器用	a..笑作咲 c..江作紅(兩)	
203	同	初聞羌笛 b..淚作泪(內) d..秋作愁(內)	
204	同	野次聞橫笛 a..□作馬 b..生水作水生 c..泪作淚(兩) d..恨作怨	
205	同	角下有声字 d..塞作寒(內) z..放翁作陸務觀	
206	同	边上聽胡笳	
207	同	b..鞞作鐙(內)	
208	鳥獸	鳥作鶯(內) d..可作應	
209	同		
210	同	a..訴作訴(內)	
211	同	無注(內)	
212	同		
213	同	鶯 c..轉作轉(內) z..羅作維(內)	
214	同	□作梭	
215	同	暮秋雨中見黃鸝有作 a..繞作逸(兩)	
216	同	燕 c..栖作棲(內) 上作止	
217	同	又(燕) a..*有快字 b..侶作侶	
218	同		
219	同	杜鵑	
220	同	又(杜鵑) b..右作古 c..何作底	
221	同	又(杜鵑) a..涼作傷(內) z..趙紫芝	
222	同	又(杜鵑) a..□作止 b..□□作片委 d..無上末字 z..同(趙紫芝)	
223	同	又(杜鵑) a..浮萍作萍浮	
224	同	又(杜鵑)	
225	同	又(杜鵑) c..谷作客(內) z..和作知(兩)	
226	同	又(杜鵑) b..期作斯(內)	
227	同	又(杜鵑) b..□作感 c..□作橋 z..正作聖	
228	同	燕山聽鶻(聽內作聞) a..三夜作夜三(內)	
229	同		
230	同	a..起作超(兩)	
231	同	聞雁	
232	同	鴈 b..□□作小柴 c..□□作長路	
233	同	鴛鴦 a..翠翅紅頸作紅頸翠羽(兩) 翠翅江頭(內)	
234	同	又(鴛鴦) z..組作徂(內)	
235	同	鶯 b..閑作到(內) d..莫作枉(兩) z..崩作則(兩)	

圖版一 卷五首

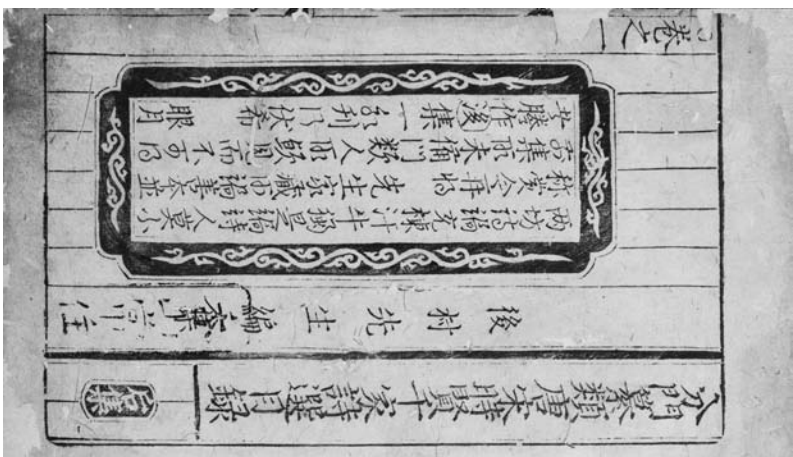


圖版二 卷七首





圖版五 後集卷首



圖版四 後集首頁